

突然舞い降りた女の子は
お見ちやんだけのエッチで処女を妹だった♡

妹派遣委員会 こよみ

エッチで可愛い、処女の妹がやってきた





おっぱいも、おま○こも
もちろん処女も……♡
ぜんぶぜんぶあなただけのもの♡

こよみは今日から
お兄ちゃんだけのエッチな妹だよ——



突然現れたこよみちゃん
どんなエッチな事でもきいてくれる妹♡



おっぱいも、おま○こも
もちろん処女も……♡
ぜんぶぜんぶあなただけのもの♡



突然現れたこよみちゃん
どんなエッチな事でもきいてくれる妹♡

基本CG11枚
(内エッチシーン9枚)
ストーリー差分76枚

愛のある孕ませえっち...♡

えっちな淫語まみれのストーリーテキスト♡

妊娠してもずっと続いていくえっちライフ...♡



妹派遣委員会 こよみ

エッチで可愛い、処女の妹がやってきた

ポンポンポンポンポンポンー

けたたましいチャイムの連打音で目を覚ます。

童貞で無職の俺の惰眠を邪魔するなんて……
セールスだったら、会社にクレームの電話入れてやろうかー

ポンポンポンポンー

「わかったわかった、今開けますからっ！」

「初めまして！
妹派遣委員会から参りました、こよみです」

「は…？いも…なんて？」

「妹派遣委員会ですよっ！
「これからお兄ちゃん…つまりあなたの元でお世話になります♥」

「新手的な風俗の勧誘とかか…？あいにくだけど俺は…」

「もー違うよお兄ちゃん、妹派遣委員会っていうのはね…」



突然目の前に現れた彼女、こよみちゃん
彼女が説明するには

『妹派遣委員会』

明らかに胡散臭い名前だが
なんでも、童貞を貫く男
そして、何より妹がいないのに妹が好き男の元へ
選抜された「妹」を派遣してくれる謎の組織……らしい。

「委員会が、お兄ちゃんに一番相性の良い妹を選定した結果
選ばれたのが私だったんです
だから私はお兄ちゃんの理想の妹のはずですよ？」

「た、確かに見た感じ、外見や仕草なんかは俺のストライクだけど……」
あと、おっぱいのでかさも俺のストライク。

「全国の童貞男子の中からでも、委員会から
妹が派遣されるのは100人に1人なんですよ、やったねお兄ちゃん！」

「結構割合高いな、そんなに妹が溢れてるのかその組織」

「まあまあ、せっかく選ばれたんですから
遠慮なくもらっておきましょうよ、いもーと♡」

「どりあえず胡散臭いのは置いて、こよみ？が来た理由はわかったが、お前はそれで平気なのか？」

「お兄ちゃんは、こよみが妹じゃ嫌？」

「いや、むしろ嬉しいっちゃ嬉しいんだが俺、ぶっちゃけ妄想で妹犯しまくったりしてるぞ？目の前にストライクの妹が現れて、我慢とかできるわけ…」

「こよみは妹になったんだからこよみの全部は、もうお兄ちゃんのものだよ？今までの妄想、これからは本物の妹でしちゃうお♡」

「そりゃ嬉しいけど俺、知っての通り童貞で…」

「私も処女だよ♡初めて同士だから怖くないね♡」



「ほらほらお兄ちゃん♡
こよみの全部を好きにしていんだよ？
これで信じてくれるかなあ？」

こよみがスカートをたくし上げ、下着を見せつけてくる。
薄いピンク色の、まさに俺好みのパンツだった。

「ね♡お兄ちゃん♡
こよみとエッチなことしちゃお♡」



「あ……♡
お兄ちゃん、おちんちんおつきくなってる……♡
こよみの、ぱんつで興奮してくれた？」



「……っ、……お、おう」

目まぐるしい展開で、頭が追いついていかないが
よくよく考えればリアルで
女の子のパンツを見るのなんて初めてだ。
体は素直に反応し、ギンギンに勃起していた。

ぴんぽん♡

「えへへ♡
うれしいな♡うれしいな♡
じゃあ、こうしたらどうなっちゃうかなっ♡」



「はいっ♡
妹おまんこだよっ♡」

「お、おまん…っ」

こよみが、さっとパンツを下ろし
おまんこが露わになる。

ニムルッ…♡

「見て見て♡
お兄ちゃん…これが、お兄ちゃん専用の妹まんこだよ♡」



体が操られるように、近づき
こよみのそこに、釘付けになる。

「お兄ちゃん、こよみみたいなの
つるつるのパイパンおまんこ好きでしょ？」

好き過ぎる。
というか現実には、目の前に
それがあるという状況に
頭がクラクラとした。

割れ目に顔を近づけると
むっつと、甘い雌の香りが漂う。

「よ、こよみっ……これ、本当に俺がっ」

つるつる♡

「うん♡こよみの妹まんこ♡
お兄ちゃんの好きにしていんだよ♡」

「本当の本当がいいんだな!?
俺と…セツクスするんだなっ」

「うん♡
こよみ、お兄ちゃんとセツクスしたいな♡」

「こよみの妹処女…もらってくれる?」

興奮で言葉が上手く出てこずに
ふんふんと息を荒く頷き返す。

「えへっ♡じゃあ…
こよみをベッドに連れてって…♡」



焦る気持ちだが、こよみの手を乱暴に引いて
寝室へと連れ込み、こよみをベッドに寝かせた。

「初めてだからちょっとドキドキするね、お兄ちゃん♡」

「こよみ、俺の前戯とかうまくできないと思うけど」

「私も処女だら大丈夫だって♡
うまくとかじゃなくて、素直にエッチ楽しんでお♡」

「そ・れ・に」

すると服を脱いで、全裸になったこよみが
こちらに大きく足を広げて――



「きつと前戯なんて必要ないと思うなあ♥」

「もう、いつでもおちんちん挿入れるよ?♥」

「ほら見て？
こよみの膣内…えっちなお汁でとろっとろでしょ？」

こよみが指で、おまんこを開く。
こよみの言う通りに膣内は
透明な愛液がくちゆくちゆと音を立てて糸を引いていた。

初めて見る、女の子のおまんこ…
クリトリスも尿道も膣も、それらを濡らしている愛液も――

ドキドキ

「あ♥お兄ちゃん♥
もう、おちんちんすっごいね…♥
がちがちに反り返ってお腹にあたってよ♥」

にぱおし

「い、挿入りたい…こよみ！挿入りたい！」

「挿入れる前に、こよみのおまんこの中、見てっ、こいっ♡」

こよみが、ぬちゃぬちゃと指で入り口のところを弄りながら指さす。

「こよみの処女膜見える…?」

そこには確かに、薄桃色で半透明の処女膜が未だ誰の侵入も許していないことを主張していた。

ドキドキ

「こよみが生まれた時からお兄ちゃんに破つてもらおう為にあつた処女膜だよ♡今からお兄ちゃんのおちんちんで破つちやう処女膜…:ちやんと見ておいてね♡」

こよみ

「こよみっ！俺もっっ！」



「ふあああつあんっ!!」

僅かな抵抗を突き破ると
ぬるっと温かい膣肉に包まれる。

「こよみ…こよみっ
もらったぞ、こよみの処女…っ」

「う…んっ♡
こよみの処女膜…やっとお兄ちゃんに破ってもらえたあ♡」

「ごめんっ、こよみの膣内気持ち良すぎて
俺っ、我慢できないっ…!!」

破瓜の痛みで顔を歪めるこよみが心配だが
勝手に腰は動いてしまい、こよみの奥へ奥へと沈み込んでいく。



「お兄ちゃんっ♡
そんなに激しく腰振って：：気持ちいいの？
こよみの処女まんこで気持ちよくなれてる？」

「気持ちいいっ、まんこっ
こよみのまんこっ、おまんこっ！」

興奮を叫び、獣のようにひたすら腰を振る。

「あん♡あんっ♡
おちんちんがっ、おちんちんがおまんこの中でっ♡」

ずちゅっ

ぐちゅ

段々とこよみの表情が蕩けていき
快感に満ちた甘い声が部屋に響き始めた。



「どうしよお、お兄ちゃんっ♡
こよみ処女なのにつ、処女おまんこなのにつ
お兄ちゃんのおちんちん気持ちいいのっ♡」

自分が今感じている、初めてのセックスの快感
それと同じものを、こよみも感じていてくれると思うと
たまらなく愛おしく思えた。

「お兄ちゃん、気持ちいいねっ♡
セックス気持ちいいねっ♡」

「ああ！こんなに気持ちいいんだな…
好きな人と繋がるのって！」

ぐっ
ちゅ

ず
ちゅ





「射精てるっ♡
おちんちんから精液びゅゅって♡
こよみの処女おまんこの腔内に射精てるのっ♡」

「ああっ、射精してるぞ!こよみ…
全部妹まんこで受け止めるっ…!」

「ああああっ!
妹にっ腔内射精っ!…処女に腔内射精っ!
こよみっ、こよみい…!」

ガクガクッ

ガクッ

どろどろ♡
どろどろ♡

「はあーっ♡はあーっ♡
セックスすごいっ…おちんちんすごいよお…♡
こんなの知ったら、毎日セックスしたくなっちゃうよお…♡」

ガクガクッ

ガクッ

どぼっ、と音がして
こよみのまんこから精液が溢れる。
少し血が混じっているようで
処女を奪った征服感と
膣内射精したという満足感に胸が満たされた。





「お兄ちゃん♡
こよみにいっぱい膣内射精してくれてありがとう♡
それに…すきって言うてくれたよね…♡」

惹かれているのは事実であるので
いちいち否定なんてしないさ。

ガクガクッ

ガクッ

「これからいっぱいエッチしようねえ
お兄ちゃんっ♡」

「どうか、遠慮なく膣内射精したけど…
その、避妊とか大丈夫なのか？」

裸で抱き合いながら
真つ当な疑問をぶつけてみるが…

「???」

お兄ちゃん何言ってるの？
兄妹のセックスで避妊する人なんていないよー♡」

おかしそうに微笑むこよみ。
冗談なのか本気なのか、微妙にわかり辛い。
妹ナントカ委員会、大丈夫かオイ。

まあ、そんなわけで
こうして俺と妹、こよみとの生活が始まった――

ガクガクッ

「んしょ、んしょっ」

半分寝ぼけたまま、違和感に気づく。
なんだが、下半身が妙に重くてあったかい……

「ふふっ♡朝からおっきいんだから♡」

「なんか、気持ちいい……」

「あっ、お兄ちゃん起きた♡おはようっ♡」

半開きの視界に、柔らかそうな肌色の輪郭が目につく。
そうだが、昨日こよみとセックスして、そのまま……
ハっとなって目を開けると全裸のままのこよみが――

「こよみ、えっと」

状況に頭が追いつかなくて、言葉がうまく出ない。

「おはようだよ、お兄ちゃん？」

「お、おはよう」

「お兄ちゃん、朝からおちんちん元気元気だねえ♡♡」

俺のが、こよみの大きな胸に挟まれて…
目の前の非現実な光景
しかし確かに感じるこよみの柔らかさが
昨日の出来事が夢じゃなかったと感じさせてくれた。



「んっ、パイズリってむずかしいね
お兄ちゃん気持ちよくなれてるかな？」

こよみが、両側からこすり上げるように
大きな胸を上下に揺らす。

柔らかさと温かさから来る快感は
セックスとは違う心地よさがあり
腰から先全体を愛撫されているようだった。

「こよみのおっぱい、めちゃうくちゃ気持ちいいから」

「そっか♡えへ♡
喜んでくれてよかったあ♡」



「あっ♡えっちなとろとろ出てきたね♡
お兄ちゃんがこよみのおっぱいで
おちんちん気持ちよくなってくれてる…♡」

こよみが大きな胸を揺らす度に
ぱちぱちと当たる音が鳴ってエロ過ぎる。



「こよみ、おっぱいおつきくてよかったあ♡
お兄ちゃんにっぱいパイズリしてあげられるもん♡」

たはっ♡

ぽに♡

たはっ♡

たはっ♡

「んっ、んっ…♡
どっしょっしょっ、お兄ちゃん…:
こよみもおっぱい気持ちよくなっちゃってる♡」

こよみがパイズリの刺激で感じている。
理想のエロ妹過ぎて、俺のモノが更にギンギンと固くなる。



「こよみっ、こよみのおっぱいで射精そっ…」

「射精して射精してっ♡
こよみのおっぱいにっ、
おまんこみたいにいっぱい射精してえっ♡」

たはんっ♡

おっぱい♡

ぽんっ♡

たふんっ

「ひああんっ♥精液でてるっ♥
おっぱいの中でびゅくびゅくって!!♥」

「こんなに熱い精液かけられたら
「よみもおっぱいでイっちやううっっ」♥♥」



「はあっ♡はあっ…♡
おっぱいでイクなんて初めてだよお…♡」

絶頂の余韻に、こよみが肩を上下させながらも
飛び散った精液を舐めとっでいく。

「ん♡これがお兄ちゃんの精液の味♡」

「そんなに俺の精液飲みたかったのか？」

「昨日は全部おまんこの膣内にもらっちゃったから
お口でこっくんはできなかつたもんね♡
んく♡凄いえっちな味がして美味しい…♡」

「ごく、ごく、と喉を鳴らす音が聞こえる度に
こよみのおっぱいに挟まれたままの股間が
固さと熱さを取り戻していく。」

「俺の精液をこんなに幸せそうに飲んで——」



「こよみつー」

組伏せるようにこよみを押し倒した。

「ぎゃっ」

「あっ、。。。めっ」

パイズリされて興奮していた頭が
こよみの驚いたような表情で一瞬冷静になる。

しかし――

「びっくりしただけだから大丈夫だよ♡
それよりお兄ちゃん♡こよみとエッチしたいんだね♡」

こよみは笑顔でそう言いながら
足を大きく開いて、俺を受け入れる態勢をとる。

「お兄ちゃん♡こよみと2回目のエッチしちゃお♡」

「あ♥お兄ちゃん、こよみのおまんこ見てる♥」

「だ、だってこよみのおまんこ綺麗すぎて…」

「まんこ」

「まんこ」

ドキドキ

完全にぴったりと閉じた、たてすじまんこ。余計な毛など一切無いすべすべでつるつるのおまんこ——

「俺、昨日こんな極上のおまんこことこよみとセックスしたんだ…」

「そうだよ♡
昨日お兄ちゃんが
処女膜破ったばかりの妹おまんこだよ♡」

こよみのおまんこを、指で広げると
膣内から、愛液が流れるように零れた。

「こよみ、パイズリしてただけでこんなに濡れたのか…」

「うん…♡」

「というか、お兄ちゃんの側にいるだけで
おまんこの中すぐにとろとろになっちゃうんだよ♡」

「だから、おちんちん挿入れて？♡
らぶらぶ兄妹エッチで気持ちよくなる♡」



「うっっ…「よみのまん」の膣内…
ぬるぬるであったかくて気持ちいいっ…!」

「お兄ちゃんのおちんちんもっ♡
熱くて固くっておっきくて…っ
「よみもおまん」気持ちいいのっ♡」

「動くぞ、「よみ」!
セックスするぞっ…!」

「うんっ♡うんっ…♡
「よみのおまん」でっ…
おちんちん気持ちよくなって…っ♡」

ずいずい



「気持ちいいよお♡
おまんこ気持ちいいよおっ♡」

彼女の甘い喘ぎ声を全身に感じながら
一心不乱に腰を振る。

ぬるっ♡

ずるっ♡

「こよみのおまんこっ♡
お兄ちゃんのおちんちん覚えちゃったのっ♡
妹おまんこ、エッチになっちゃったのっ♡」

「もっとエッチになっていいからっ
毎日セックスしてやるからっ、こよみっ」



「する！するっ！」

毎日お兄ちゃんのおちんちんとエッチするっ！

こよみの膣内の締め付けが一気にキツくなる。

「こよみっ、一緒にイクぞっ！」

膣内射精してやるから、俺の精液でまんこイけ！」

「イクっ♡イクっ♡」

今おまんこに射精されたら絶対イクっ♡
膣内射精でおまんこイっちゃうのっ！」

「おおおおっ！こよみいっ！射精すぞっ！」

「こよみのまんこにっ！まんこっ！」

ぬるっ♡

ずるっ♡



「膣内射精精液でっ
おまんこイっちゃうよおおっ♡」

「お兄ちゃあああっ♡
射精てるうっ♡こよみの子宮にびゆるびゆるって♡
お兄ちゃんの精液がおまんこの膣内に射精てるのおっ♡」



「はあ…はあっ…
いっぱい射精だね、お兄ちゃん♡」

ゴプゴプッ♡

「ああああ…
昨日と今日でもう一生分の精液でたかも」

射精の快感で腰に力が入らない。
こよみと抱き合う様に覆いかぶさった。

「それはダメだよお、お兄ちゃん
「これから毎日いっぱい膣内射精してもらうんだからあ♡」

どうやらなかなか手ごわい妹のようだ…。





そして、
夜

「こよみつ、こよみ…！」

ずばんっ

こよみがやってきて2日目だというのに
今日は1日中セックスばかりしていた。
というかむしろ、お互いセックスを経験してしまったから
その快感の誘惑に逆らう事などできなかった。

「お兄ちゃん…この態勢だとっ♡
おちんちん子宮にぐりぐり当たって気持ちいいよおお♡」

あん♡

あん♡

ぽんっ

「ああっ、俺もこよみの子宮口突く度に
まんこの入り口がきゅっきゅっ締まって気持ちいいー！」

あん♡

「だつてっ♡」

お兄ちゃんに子宮突かれるとおまんこが精液欲しがっちゃうんだもんっ♡」

「あつつい精液もらえるんだつて子宮が喜んじゃうんだもんっ…♡」

ずばんっ

キュン♡
キュン♡

ぽんっ

あん♡

あん♡

膣内が激しく収縮し子宮口が吸いついてくるのを感じる。こよみの体が、本当に俺の精液を欲しがっているのだった。実感すればするほど、腰の動きは激しさを増していった。

あっ♡

「こよみっ欲しいか!
俺の精液、子宮に欲しいのかっ!」

ずばんっ

「ほしいほしいっ♡
おまんこの膈内で射精してほしいのっ♡
子宮に熱いのびゆるびゆる注いでほしいのっ……♡」

「こんなに膈内射精ばっかりしたら
こよみ、俺の精子で妊娠するぞ!それでもいいのかっ」

キュン♡
キュン♡

ぽんっ

あん♡

あん♡

あん♡

「するっ♡妊娠するっ♡
お兄ちゃんの精子で妊娠したいっ♡」



「妊娠したい妊娠したいっ
お兄ちゃんの精子でおまんこ妊娠させてっ♡」

すばんっ

いいのか
本当にこよみを妊娠させても…？
昨日出会ったばかりの女の子が
妹になつてくれて、セックスもして…

キュンッ
キュンッ

ぼん

「お兄ちゃんっ♡
こよみを妊娠させていいよっ♡」

俺の迷いを察したように
繋がったままのこよみが優しく微笑む。

「お兄ちゃんは今まで綺麗な体でいたからっ
これからはいっぱい幸せになる権利があるのっ♡」

あんっ♡

あんっ♡

あんっ♡



「いいんだなっ！本当に妊娠するんだなっ！俺の精子、受精させてっ、ボテ腹にしているんだな！」

ずばん

「なるなるっ♡
お兄ちゃんの精子でボテ腹妹になる♡
だからこよみのおまんこに思いつきり孕ませ射精してっ♡」

あん♡

あん♡

ぽん

「射精すぞこよみ！種付けするぞっ!!!」

「射精して射精してっ!!!
昨日まで処女だった妹おまんこ
お兄ちゃんの精子で孕ませてええええっ!!!」

あ♡





「妊娠しちゃうっ♡
昨日まで処女だったおまんこで孕んじやうっ♡」

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

「よみっ、妊娠しろっ！
受精しろっ！俺の精子でポテ腹になれっ……！」

「ひああああんっ♡♡♡
受精てるうううううっ♡♡♡」



「あつ♡いままっ♡はらんだっ♡絶対はらんだっ♡
「よみのおまんこっ♡お兄ちゃんの精子受精したっ♡」

こよみの膣内を大量の精液で征服していく――

雌として一番大切な部分を
自分の遺伝子で染め尽くしていく満足感……
自分が雄に生まれてよかったと本能で感じる。

「おにいちゃっ……ん……♡」

こよみつ、体中がイッてるみたいになってるのっ……♡
これ絶対受精してる感覚だってわかるの……♡♡♡

こよみもガクガクと痙攣しながら
雌としての最高の快感に全身で感じているようだった。

「こよみつ……孕めっ、孕めっ……孕んでっ……」

「孕むっ……孕むっ……♡孕んでるよっ♡」

自分でも信じられないような
大量の精液をこよみの膣内にぶちまけ
崩れ落ちるように倒れた。

「ひゃー……っ」

「お兄ちゃん重いよお……」

「こめっ……でも……気持ちよすぎてるっ……」

二人で、肩で息をしながら笑い合う。
こんな最高の妹と出会えるなんて
俺、この歳まで童貞で本当に良かった――

こよみとの生活も1週間が過ぎると
段々と二人の時間に慣れてきたものである。

「んくんちゅっ…じゅるる♡」

「こよみフェラ好きだよなあ」

こよみが妹になって、初日以外は
フェラされていない日は無いと思う。

「ぶはっ
だって、おちんちん啜えてると落ちつくんだもん」

「まあ俺は気持ちいいからいいんだけどね」

「うんうん♡お互い気持ちいいからいいの♡
あむあむ♡ちゅっ♡」

ぬるぬるで、あつたかくて柔らかかくて
崩れない人肌のゼリに包まれてるような
こよみのフェラは何回されてもその快感に飽きることもなくて無い。

「んんんっ♡じゅるっ、ずぞぞっ♡
おちんちんっお兄ちゃんのおちんちんっ♡」

下品で卑猥な音を立てながら
まるで俺のモノを吸い取るように丹念にしゃぶるこよみ。

「いつも思うけど、そんなに美味しいか？」

「うん♡お兄ちゃんだって
「こよみのおまんこべろするの好きでしょ？」

「まあ、確かに」



「お兄ちゃんのおちんちんはねー
あま、にが、しょっぱ、えろ、美味しい感じ♡」

「どんな感じなんだそりゃ」

「んふっ♡
多分お兄ちゃんが、こよみのおまんこ舐めてる時と
おんなじ感じだとおもうよ♡」

「ああー
そりゃ確かに幸せだし
ずっと舐めてたくもなるかー、納得できる。」

「とうか、こよみ…
俺そろそろ射精そう…」



「うんっ♡

このままびゅーって射精して♡

こよみのふえらちおで

気持ちよくなつたおちんちんでびゅーって♡



こよみが射精を促す為に顔を激しく前後させてしゃぶりあげる。口の中では、こよみの舌が竿全体を舐めまわしていて射精間近の精液が昇ってくるのを感じる。



「こよみつ！射精るぞつ！」

「射精して射精してっ♡

こよみのおくち、おまんこだと思ってっ♡

妹おくちまんこにっぱい中出ししてっ♡



じゅるるる♡

じゅるる♡



「んんんんーっ♡♡♡♡」

こよみの口内に
びちやびちやと精液をまき散らしていく。

こよみが、こくこくと喉を鳴らして精液を飲むが
それ以上の速度で新しい精液を射精していく。

口元から溢れた精液がどぼどぼと零れ
こよみの手や顔を白濁に染めていった。

ちゃ♡

ドク♡
ドク♡
ドク♡

ドク♡
ドク♡
ドク♡

「精液美味しい…♡
お兄ちゃんの精液、お兄ちゃんの精液…っ♡」



「んっく♥んっく♥
ふはあっ…今日もどろどろ精液「ちそっさま」♥」

「あああ…気持ちよかった…
最近、こよみにフェラしてもらわないと1日が始まらないわ」

「うんうん♥これから毎日するからね♥
こよみの妹お口まんこに、好きな時に好きなだけ中出ししてね♥」



こよみとの生活が始まって、一ヶ月――

「お兄ちゃんっ♡
今日はスク水だよスク水！
スク水の妹とエツテしようよお♡」

こよみがスクール水着姿で、抱き着いてくる。
昨日はメイド、その前はブルマ……その前は――
コスプレセックスも色々してきたが
改めて、やはりスク水は最高だなあと思う。

「それにしても、こよみ……」



「前よりおっぱいおっきくなってるないか？
いや、こよみは元々巨乳だったとは思うけど」

「お兄ちゃんが毎日いっぱ揉むから
おっきくなったんだよ多分、…それとも」



「赤ちゃんできてるから…かな？」

ゆるみきって、にやけた顔でこよみがお腹をさする。

「できてるかなあ」

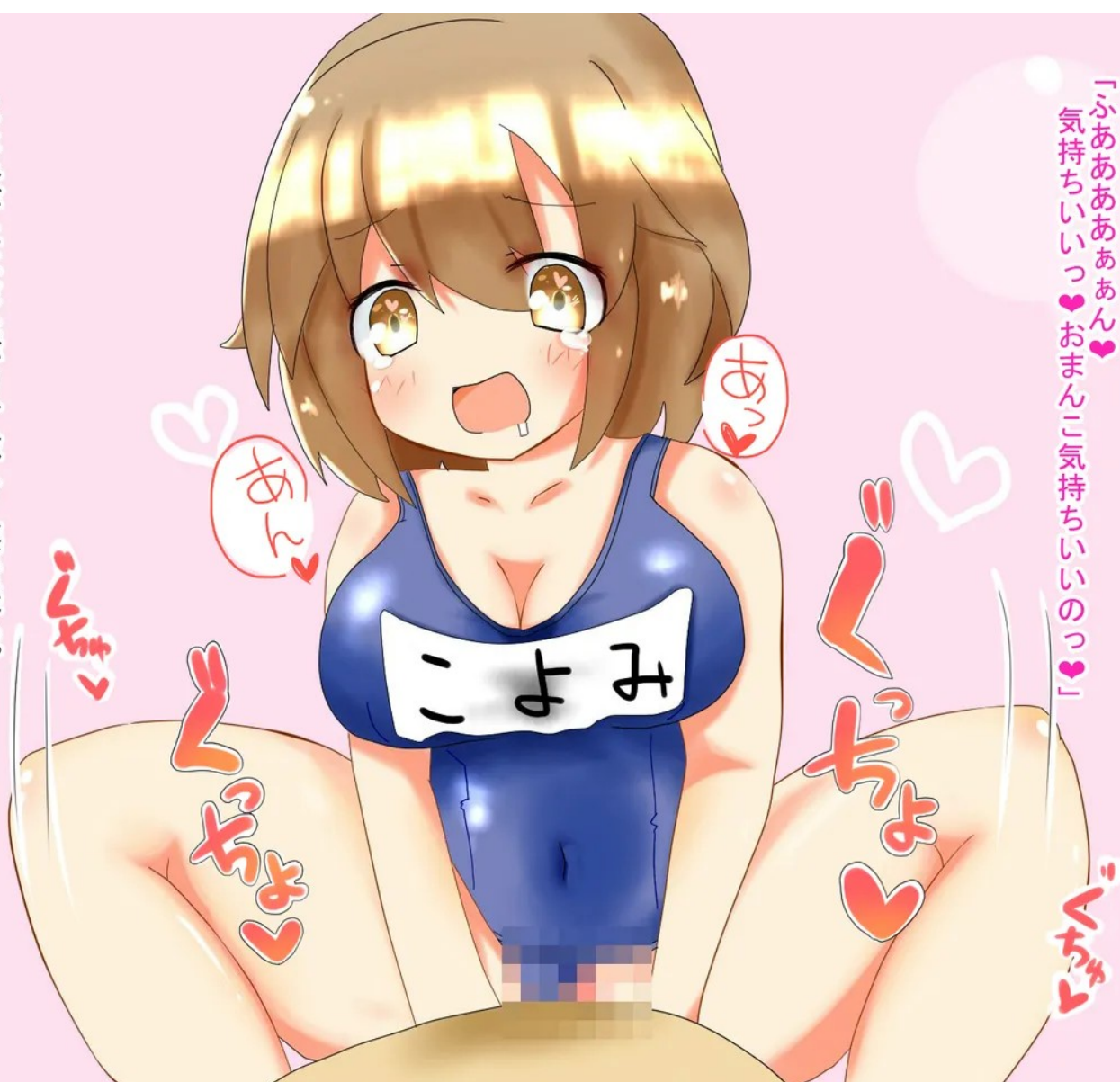
「この一ヶ月で、こよみに何回中出しした？」

うーん、1日に3回はしてるから…100回くらい？

「まあ、できてるだろうなあ…確実に」

「そっだよ、ね♡」

「ふああああああん♡
気持ちいいっ♡おまんこ気持ちいいのっ♡」



こよみが上にまたがり、激しく腰を振る。

こよみが腰を落とすと、奥の子宮がグリグリと当たるし腰を上げると、竿全体を吸い上げられるようでその動きの全てに、こよみの愛液が絡みついてたまらなく気持ちいい。

「こよみのおまんこっ♡
お兄ちゃんのおちんちんぐっちより啜えちゃってるっ♡
兄妹セックスで、えっちなお汁止まらないのっ♡」

部屋中に響く卑猥な水音と
こよみが繰り返す淫語に興奮が加速していく。

「こよみ、お前エロすぎるっ…」



「エッチなお兄ちゃん妹だもんっ♡
お兄ちゃん、こよみがエッチなこと言っくと喜ぶよねっ♡
おまんこっっていっぱい言っくと喜ぶの知ってるもんっ♡」

「いっぱいエッチなこと言うよっ♡
お兄ちゃんが喜んでくれるなら♡」

こよみが健気さが可愛すぎて
結合部の快感がどんどん増していくのがわかる。



「おまんこ♡おまんこおっ♡
気持ちいいの♡妹おまんこぐちよぐちななのっ♡
お兄ちゃんとのセックスでおまんこ幸せなのお……っ♡」

「こよみつ、そんなに激しくしたら
射精するぞっ…こよみのまんこに…!!」

「射精しちゃおっ♡精子♡おまんこにっ♡
もう絶対妊娠しちゃってる妹おまんこにっ♡
もっともっと精子注いで赤ちゃん双子にしちゃおっ♡」

「ああ…射精すぞ!
こよみのまんこにっ、妹のおまんこにっ!」

「射精してっ♡
こよみのえっちなお汁とおにいちゃんの精子♡
ぐちゅぐちゅに混ぜて赤ちゃんにしちゃおっ♡
妹おまんこに膣内射精してえええっ!」



「ひあっ！おまんこに射精てるっ♡
おまんこの膈内に精液びちゃびちゃかかっているう♡
お兄ちゃん精子っ妹子宮で全部受精してるよおっ♡」

「全部受け止めるっ、子宮の中俺の精液で満タンにしるっ……！」



「満タンにしてっ♡
こよみのおまんこっ、こよみの子宮っ♡
お兄ちゃん精子を受け止める精液タンクにしてっ♡」

「んんんーっ♡
子宮満ちてくうう…っ♡
お兄ちゃんの精子で子宮あついよおっ…っ♡」

こよみが望むまま、膣内射精する。
熱い膣肉に包まれたまま射精する快感
そして雌の子宮に容赦無く精液を注ぎ込む満足感。

こよみと居ると
愛する人とのセックスをやめられない理由がよくわかる。



「おまんこっ♡おまんこイってるっ♡
お兄ちゃんに膣内射精されると、すぐイっちゃうっ♡
おまんこも子宮もっ、きゅんきゅんなるのっ♡」

精液を全て子宮に出し切ると
こよみが、倒れ込んでくるので抱きとめる。

「ふわああ…気持ちよかったあ…♡」

こよみが甘えるように体を擦りつけてくるので
頭を屋細工撫でてやると、目を細めて抱きついてくる。

「こよみね、もうお兄ちゃんいないと生きていけないよお…♡」

「ん、それは俺も間違いないな…
もうこよみがいない生活とか考えられないわ」

「ずっとずっと一緒だからねっ、お兄ちゃん♡」



数か月後――

「お兄ちゃんお兄ちゃんっ♡
妹派遣委員会からこれが届いたよっ！」

笑顔で駆け寄ってきたこよみが持つ1枚の紙を見ると……

「なんだこりや、こよみの戸籍……？
って苗字が俺と同じになってるな……って」
「とは」

「うん！これで名実共にお兄ちゃんの妹になれたんだよ！
えへへ、嬉しいな♡嬉しいなあ……♡お兄ちゃんっ♡」

「というか戸籍の捏造……って
まあ、こよみが側に居てくれるのなら
その辺りは詮索しないでおこう。」

「それにしても……」

「見事に孕んだなあ」

俺の子を妊娠したこよみのお腹を撫でる。

「えへ、えへへえ…♡
お兄ちゃんとかよみの赤ちゃんだよお…♡」

「ボテ腹妹いいなあ、エロいなあ」

「ああもうこよみ愛してる愛してるっ」
抱きしめて、頭もお腹も全身撫でまわしてやる。

「んふふ♡
お兄ちゃん専用のボテ腹妹だよー♡」

「もー♡お兄ちゃんったら♡
でも、そんなお兄ちゃんに嬉しいお知らせがもう1コあるんだよ♡」



こよみに手を引かれ、リビングに座る。
こよみはソファにもたれかかると、上着をまくりあげ
妊娠で更に大きくなったおっぱいをさらけ出した。

大きなおっぱい、大きく膨らんだおなか
俺がこの娘を妊娠させたのだという確かな証拠――

「えへへ♥お兄ちゃんならきつと喜んでくれるよ♥」

そう言うと、こよみは自分の胸を
ぎゅっぎゅと絞るように揉みはじめた。
真っ白で柔らかい胸が、ぐにぐにと形を変えて非常にやわし。

「んんー♡
お兄ちゃん準備いいー？」

「お、おう」

何だかわからないが、こよみが笑顔なので心配ないだろう。

「んー♡お兄ちゃんっ、でるよっ♡」



こよみの乳首から母乳が吹きだした。

「ほーら♡

お兄ちゃんが妊娠させてくれた
ボテ腹妹のえっちなおっぱいみるくだよっ♡」

何を言うより先に
気づいたらこよみの乳首にしゃぶりついていた。

プニャアアアッ♡

「あんっ♡嬉しい…♡

「こよみの妊娠みるく飲んでくれるんだ…♡」

蕩けるような甘さの、こよみの母乳を
ひたすら吸いだして赤子のようにごくごく飲む。

「お兄ちゃん…♡」

乳首にしゃぶりついて母乳を飲む俺の頭をこよみが母親のように、優しく撫でる。

「よかったあ♡
やっぱりお兄ちゃん喜んでくれた♡」

ひたすら夢中でしゃぶりつく俺のズボンを脱がしギンギンに勃起したツレをこよみが母乳のついた手で撫でまわす。

愛液や唾液とはまた違う快感だった。

「こよみね、もうエッチしても大丈夫になったんだよ♡
だから…ベッドいいかな？」

「こよみの妊娠おまんこにおちんちん挿入れてポテ腹妹と気持ちいい母乳エッチしようね♡お兄ちゃん♡」

安定期に入ったこよみとの、数か月ぶりのセックス
結局お互いにブレキ等きかず一日中交わり続け
すでに夜になっていた。

「こよみのポテ腹まんこ、気持ちよすぎで…
何回しても全然おさまらない…」

「えへへ♡こよみだよ♡
お兄ちゃんのおちんちん久しぶりに挿入れてもらえて
おまんこがずーっとキュンキュンしっぱなしなの♡」



「ああ、ほんと気持ちよすぎる…っ
妹の妊娠まんこ、俺が孕ませたまんこ…っ！」

「そっだよ♡
お兄ちゃんのおちんちんで処女膜破って
いっっぱい、膣内に精液どびゅどびゅして
赤ちゃん孕ませちゃった、妹の妊娠おまんこだよ♡」

俺を興奮させる為に
こよみがわざと卑猥な言い方をする。



「気持ちいいねっ♡
大好きな人とのセックス♡
こよみ、お兄ちゃんに出会えて、妹になれて本当に幸せだよっ♡」

「ああ、俺も最高に幸せだよ
きつとこよみのお兄ちゃんになる為
にずーっと童貞だったんだな」

「こよみもっ♡
お兄ちゃんに孕ませてもらう為に
生まれてきたんだよっ♡」

「何回でも孕ませてやる
何回でも膣内射精して、妊娠させてやるからなっ！」





「そんなこと言われたらっ
 おまんこ蕩げちゃうのっ♡子宮が喜んでるっ♡
 一生お兄ちゃんのおちんちん離さなくなっちゃうっ♡」
 身をよじらせるごよみの膣内を
 ガンガンと激しく突きあげる。

「あんっ、ああんっ♡
 ダメダメっ♡赤ちゃんにおちんちん教えちゃダメっ♡
 お兄ちゃんのおちんちん♡
 ♪パパのおちんちん♡」

「お腹の子供にも教えないとなっ
 これがごよみを、ママを孕ませたんだって！」

「絶対エッチな女の子になっちゃうよっ♡
 パパのおちんちん欲しいがエッチな子にっ♡」

ぱちん♡
 ぱちん♡

ちん♡

ぐちん♡

ぱちん♡
 ぱちん♡

ちん♡

あん♡

あん♡

「そしたら、二人まとめて可愛がってやるからっ
こよみも、娘も、何度だって孕ませてやる！」

「お兄ちゃんっ♡お兄ちゃんっ♡
こよみ幸せ過ぎてもうイっちゃうよ♡
ポテ腹おまんこイっちゃいそうなのっ……♡」

「俺ももうイクぞっ!!
こよみの膣内におまんこに射精すぞ!!」

「射精してっ♡お兄ちゃんの精液射精してっ♡
妹おまんこにっ、妊娠おまんこにっ、孕みまんこにっ♡」

「妹のおまんこに射精してえええええっ!!」





「ふああああっ♡♡♡♡♡
イっちゃうっ♡おまんこイっちゃうっ♡♡♡♡♡」

「あああああっ、イけーまんこイけっ！
俺の精子でポテ腹まんこイけえっ！
こよみつ。。。こよみい。。。っ！」

「イってるよおお♡
ポテ腹まんこでっ、孕み子宮でイってるうううっ♡♡♡♡♡」

ドヒュー♡
ウァッ♡

ドヒュー♡
ウァッ♡

「お兄ちゃん好きっ♡好きっ♡大好きっ♡」

注ぐ度に、射精する度に
愛を叫ぶ「よみがたまらなく愛おしい——」

「よみ、ずっと一緒だぞ」

「うんっ……♡
お兄ちゃんっ♡と、パパ♡
パパになっても、ずっと「よみのお兄ちゃん」でいてね♡」



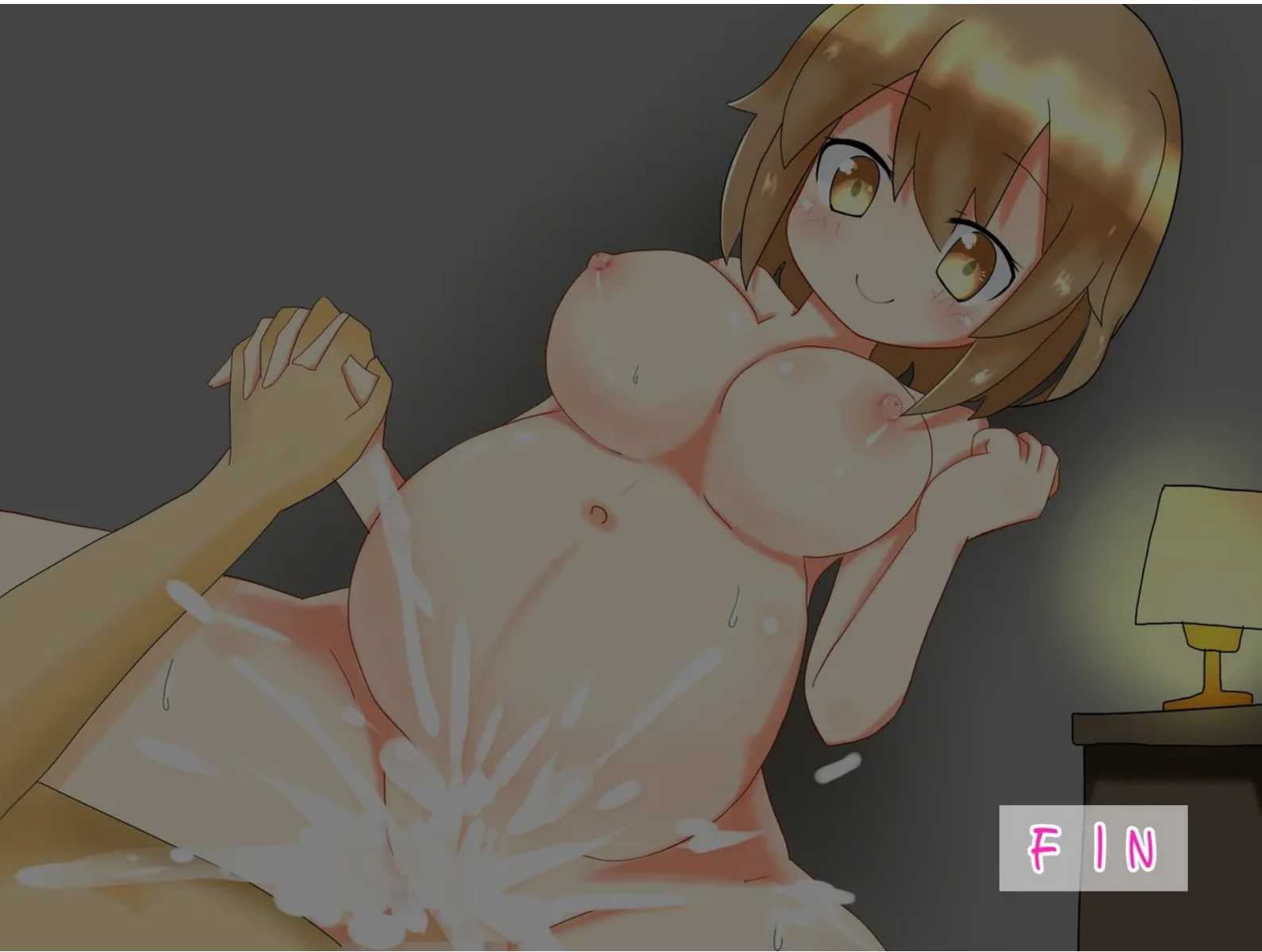


妹派遣委員会——

結局、色んなことがわからないままだが
俺とこよみは間違いない幸せだ。
だったら、それだけでいいんだろう。

願わくば、他の「兄」達が
こよみの様な、理想の妹と出会っていることを祈ろう。

次はきっと、素敵な妹があなたの元へ——



FIN